

学校だより「オアシス」

第5号 平成30年8月29日(水) 《校長》



いずみん

さあ、新学期に ステップアップを

いよいよ今日から、2学期がスタートしました。子どもたちが元気に2学期の始業式を迎えられた事を大変嬉しく思います。

この夏休み期間中、ご家庭で子どもたちは、各家庭のルールのもと、勉強やスポーツ等に頑張ったことでしょうか。また、夏休みならではのいろいろなことを経験し、たくましくなったことでしょうか。

そんな子どもたちに、始業式で次のようなことを話しましたのでご紹介します。

1つは、7月の学校だよりで伝えたことを再度話しました。それは、「周りの人がやっているのと同じ頑張りでは、今のまま。もし、周りの人が頑張れば、人並みに頑張っている、今より下がってしまいます。『夢へのプラスα』で向上につなげてほしい。」ということです。そして、それを実行できたかを問いかけてみました。ご家庭で子どもたちの様子を振り返っていただければと思います。

2つめは、2学期は「成長と充実」を図るには、もってこいの季節です。行事も沢山あります。まだまだ、暑い日が続きますが、秋は、過ごしやすく、体を鍛えたり、読書をしたり、学習の成果を上げたりするのに、たいへん恵まれた時期です。そこで、夏休みに「夢へのプラスα」ができなかった人、もっと向上したい人は、2学期に何か一つ、いつもの勉強、いつもの練習に、プラス30分(小学生は10分で結構です)を加えてほしい。そして、続けるためにそのことを紙に書いて、ご家庭のみんなが見る冷蔵庫に貼ってほしいということです。子どもたちの主体的な取組を期待しています。

目の前にある「自分がしなければならないこと」一つ一つのことから、目を背けないで、成長と充実を実感できる2学期になるようご家庭でもご支援をよろしくお願いします。

考えること・継続すること の大切さ

先日、日本サッカー協会会長の田嶋幸三氏の講演を聞く機会がありました。当たり前のことですが、その大切さを強く感じましたので紹介します。

大きく5つの点でお話がありました。

1. ワールドカップのサポーターが客席でゴミを拾う姿はよくニュースで見ますが、選手のロッカールームの写真は初めて見ました。試合終了後、他国は飲み物などのゴミをもちろん、つばを吐いた後まで残っているところもあるそうです。しかし、日本チームのロッカールームは、使用前よりも美しく輝いていました。日本文化というだけではなく、JFAの理念である「サッカーを通じて、豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会発展に貢献する」を徹底しているからだそうです。

2. 思考という点で、日本の子どもにミスをした時、「どうしてそこにキックした」と聞くと、「沈黙」だそうです。しかし、海外の子どもに聞くと「そこに隙間ができ、A君がそこに走り込んでくると考えたから」など、瞬時に考えたことを実行し、そのことを後で話すことができるそうです。おそらく日本の子どももその時は同じことを考えたのかもしれませんが、しかし、そのことを振り返り言語として表せることで、ロジカルな思考が発達し、瞬時の判断の適格性が増していくそうです。田嶋さんは、自分の子どものことを例に出されました。それは、家で子どもがテレビを見ていた時、そのテレビについて「どう思う」と聞かれたそうです。その時、子どもは「ビミョー」「別にー」と答えたそうです。田嶋さんは叱咤した後、その言葉の影響についてじっくりと話をされたそうです。この言葉を使っていると思えば失うと判断されたからだそうです。

3. 試合を見ているとすぐに人のせいにするチームがあるそうです。また、監督やコーチの指導がよくない、合わないと平気で話す選手もいるそうです。それは、甘えているだけです。実際試合において監督の指示通りだけ動いては試合に勝つことができません。さらに、指示されたことだけの練習をしても成長しないそうです。今置かれている立場や状況の中で、自分がどうするかを考えない選手は、人間は、社会では通用しないということです。逆に、自分がしっかりとしなければならない状況こそ、強くなるチャンスと受け止め、考え、実行していくことが自分の成長につながるそうです。紹介しました3つのことについて、よければご家庭でお話をしてみていただければと思います。

あと、2つのことについて話がありました。紙面の都合上、次回紹介いたします。

を身に付け、未来を切り拓く

